定本

平出修集

第二巻

定本

平出修集

第三巻 作品三・資料・研究

春秋社

定本 平出修集 第三巻

著者 平出 修

発行 昭和五六年七月三〇日第一刷

株式会社春秋社
発行者 田中弘吉
東京都千代田区外神田二-一八-六
〒一〇一
電話〇三（二五五）九六一一
振替東京八-二四八六一

印刷 育英印刷興業株式会社
製本 株式会社小林製本所

定価四五〇〇円

©Syu Hiraide 1981
NDC 914

凡例

一、本書は、作品篇・資料篇・研究篇に大別した。

一、作品篇には、『定本平出修集』前二巻に収め得なかった修の作品をあつめた。短歌・評論Ⅰ・評論Ⅱ・書翰に分け、各項目はおおむね発表年代順に従った。なお署名は本名によるものは省いた。

一、資料篇には、同時代人の筆になるものと遺族文集から収録した。

一、研究篇には、戦後に発表された修に関する論文や寄稿論文、合評などの一部を採録した。

一、本書の校訂の方針は前二巻のそれを踏襲した。仮名遣は原文のままとし、変体仮名は平仮名に改めた。片仮名ルビは原文に付せられたもの、平仮名ルビは編者において読解の便のためあらたに付したものである。

一、付録、略年譜は修の年譜・作品と関連事項を併記し、一読に便になるよう図った。ほかに『平出修研究』総目次(既刊分)・参考文献・関係地図見取図を付した。

一、巻末の索引は作品篇に関するものである。

目次

凡例

I 作品篇

短歌……三

評論 I

伊勢物語評話（二）……四
鬼面録……八
『つゆ草』を読む……一三
歌壇漫言（一）……一五
大同団結……一六
新派和歌とは何ぞ……一六
絶対主義……二三
歌界漫言……二四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二題言……二五
『夕潮』の作者に寄す……二七
反自然主義大同団結問題メモ……二八
文芸院の設立を望む……二九
今日の小説について……三一

評　論　Ⅱ

動産ニ関スル完全ナル権利ノ取得ハ占有ノ効力ナル乎……三三
法律上の婚姻……三四
民法百二十二条ノ解釈……三九
公益法人の総会……四一
一ケ月を下らざる期間内の意義……四五
法曹の片影……四七
生活の方針……四八
司法権独立の新意義……五一
裁判と常識……五三
思想の自由討究……五七
博士辞退論……五九
今風の家庭と婦人の機転……六二
（追補）出版月評……六四

書　翰

児玉鴻一郎宛……六八
二百号記念催能について……六九
大国民社宛……七一
万造寺斉宛……七三

Ⅱ資料篇（修をめぐって）

同時代評

余材（抄）（与謝野鉄幹）……七五
「短歌研究」（抄）（アララギ同人）……七五
〈慨嘆すべき歌壇〉（抄）（伊藤左千夫）……七七
所謂スバル派の歌を評す（抄）（若山牧水）……七八
彼の一巻、この一巻（抄）（牧水）……七八
八月の小説評（抄）（太田水穂）……七九
気紛れ日記（抄）（内田魯庵）……七九
『畜生道』（相馬御風）……八〇
「畜生道」を読む（長谷川濤涯）……八一
『畜生道』（荒畑寒村）……八六

再び「硬軟生活」に就て（島村抱月）……八六
新刊批評（平出修遺稿）……八九
平出修氏を懐ふ（豊岡美代坪）……九〇
稚言痴語（荒川義英）……九二

交友録

短歌　平出修氏に（寛）……九五
千葉紀行（抄）（与謝野晶子）……九五
明るみへ（抄）（晶子）……九六
明るみへ（補遺）（抄）（晶子）……九八
書翰（晶子）……九八
礼儀小言（抄）（森鷗外）……一〇二
日記（抄）（鷗外）……一〇二
日記（抄）明治三五—四〇年（石川啄木）……一〇四
日記（抄）明治四一—四三年（啄木）……一〇五
日記（抄）明治四四年—（啄木）……一一〇
書翰（抄）（啄木）……一一三
詩　古びたる鞄をあけて（啄木）……一一三
詩　瀕死の人に与ふ（高村光太郎）……一一四

大逆事件

大逆事件を憶ふ（抄）（鶴沢総明）……二一六
EDITOR'S NOTES（抄）（啄木）……二一六
書いても差支なささうな事（抄）（江南文三）……二一七

反自然主義会合

日記（抄）（志賀直哉）……二一九
白樺派とその時代（抄）（対談・高見順・直哉）……二一九
或る男（抄）（武者小路実篤）……二二一
反自然主義の会合（抄）（実篤）……二二三
青春回顧（抄）（里見弴）……二二四

回想

刻苦勉励（一松定吉）……二二六
「スバル」の盛衰とその功績（茅野蕭々）……二二八
私の履歴書（吉井勇）……二三〇
平出修と石川啄木（土岐善麿）……二三一
与謝野寛大人（抄）（斎藤茂吉）……二三五
師恩の記（抄）（堀口大学）……二三六

書翰（生方敏郎）……一三七
「新思潮」創刊前後のこと（抄）（谷崎潤一郎）……一三九
『戦争と平和』の翻訳と平出修君（馬場孤蝶）……一三九
書翰（抄）（夏目金之助）……一四〇

遺族文集

〝嬢や〟（平出ライ）……一四一
父修（平出ひさ子）……一四四
想い出（児玉イシ）……一四七
生家と叔父修のことなど（玉井けふ）……一五二
お馬出の記憶（浅香さく）……一六〇
平出の家（高田）の変遷（樋口清）……一六一
鷗外先生と修と（平出禾）……一六一
白い風呂敷包み（平出彬）……一六五

終焉前後資料

当時の新聞より……一七一
〝ゆく雲〟（抄）（小沢嘉一）……一七二
故平出修追悼晩餐会出席諸君自署……一七三

Ⅲ研究篇

研　究

平出修と幸徳秋水（岩城之徳）……一七七
大逆事件と平出修（神崎清）……一八〇
平出修のこと（中野菊夫）……一八二
平出修（『日本文壇史』より）（瀬沼茂樹）……一八九
「明星」「スバル」と歌人平出修（新間進一）……一九六
平出修の短歌（大塚雅彦）……二〇三
平出修の評論活動（古川清彦）……二一三
明治法律学校と平出修（八角真）……二二四
関西文壇と平出修（明石利代）……二三三
平出修の文学と深層風景（志村士郎）……二四三
平出修と農民小説（市村玖一）……二五四
平出修随想（児玉甲七）……二五六
解説―「逆徒」（吉田健一）……二五八
平出修の法律論について（平出禾）……二五九
サンフランシスコからの手紙（平出彬）……二六七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

書評

思想家としての平出修（伊豆公夫）……二七〇
『定本平出修集』（杉浦明平）……二八四
平出修雑記（森長英三郎）……二八九
「定本・平出修集」（小田切秀雄）……二九三
大逆事件の弁論に活躍（戒能通孝）……三〇〇
時代に先んじて（落合京太郎）……三〇二
今日の問題・平出修（朝日新聞）……三〇八
再評価される平出修（産経新聞）……三〇九
『定本・平出修集』（毎日新聞）……三一〇

合評

修短歌選（平出修研究会有志）……三一二
修の小説（第一・二回）（平出修研究会）……三三一
参考・小説評一覧……三五二
修の文芸評論（第一～三回）（平出修研究会）……三五六

建碑経過

ふるさとに建てた修の〝いしぶみ〟二基（児玉甲七）……三八三

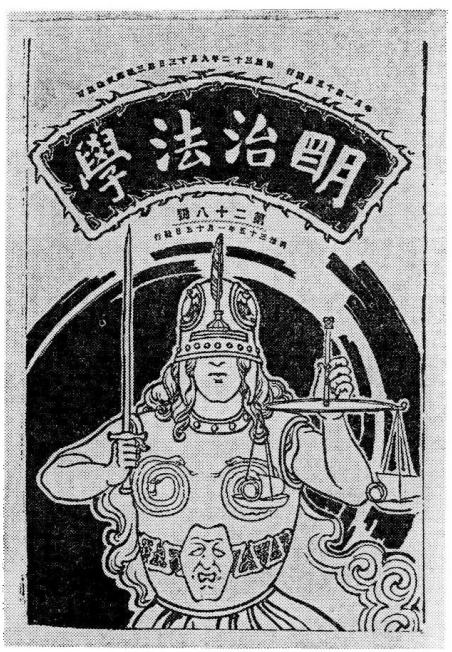
付録

平出修略年譜……三九一
『平出修研究』目次一覧……四一二
平出修主要参考文献……四二五
大逆事件関係文献目録抄……四三一
関係地図と見取図……四三三
索引（1～3）

本扉題字　平出　禾

I

作品篇



明治法律学校校内機関誌「明治法学」表紙

短歌

文つけて放ちし鳩の行く空にうれしや一つうらわかき星

夢におぢて助け呼べども声いでぬそれに似たりや我なやむ胸

胸にあるおもひのまゝをしら紙の世にある限り書いつけて見む

花おもき芙蓉ひと朝風あてゝ妹が小庭のみだれぬるかな

桐の葉を頬におしあてゝ誰が故のもろき命とさゝやきしかな

（以上五首「明星」七号 明治三三・一〇 署名児玉露花）

劇場の白き壁より逢引の夜のごと君はいでたまふかな

（小説「未亡人」より）

劇場のあかき露台に君がさす宗十郎の紋のかんざし

（小説「鎖交」より）

評論 I

伊勢物語評話（二）

新詩社同人

むかし男、武蔵の国までまどひありきけり。さて其の国にある女をよばひけり。父はこと人にあはせんといひけるを、母なんあでなる人にと心づけたりける。父はなほ人にて、母なん藤原なりける。さてなんあで人にと思ひける。このむこがねによみて、おこせたりける。すむ所なむ入間の郡みよし野の里なりける。

みよし野の田の面の雁もひたぶるに君がかたにぞよると鳴くなる

むこがね、かへし、

わがかたによると鳴くなるみよし野の田の面の雁をいつか忘れむ

となむ。人の国にても、かかる事は絶えずぞありける。

（露花）『父はこと人に云々』と先ず一断定を下して、夫から説明を後にする、斯様な句法は伊勢には他にも沢山ある。泣菫君の美文などにも能くあるやつだ。

（蝶郎）単に事実を有のまゝに写したのみで、歌も文も、さほど面白い所ではありませぬ。

（林外）僕は又この一段は文と云ひ歌と云ひ、いかにも素朴で、其の時代の田舎人までも聯想される。誠に面白い所だらうと思ひます。

（蝶）雁の比喩などを見ても、素朴なさまは備へませぬ。

（鉄幹）『母なん藤原氏云々』僕はここを男の上から見て、当時の習ひで、権家より妻をもらふのを、この上ない名誉と心えて居た其頃の風俗が好く見えると思ふ。

（露）この時代の女の権勢の強かつたのが見えてゐます。

（晶子）私は源氏の空蟬が伊予介中納言に附きましたとやうに、妻の方から見まして、そんな人に下りました、その藤原氏の如何にもうらぶれた様が目に見えるやうに思ひますの。

（露）蕪村の更衣の句は面白い。

（鉄）母が代つて娘の事を歌つてやるのも面白いではないか。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com